

川の命を守る指標種『かわやつめ』 ～ 川の命をつなぐ生き物と、失われつつある伝統～



元江別漁業協同組合 山崎さんからの提供写真

【入場無料】

日時 令和8年2月28日(土) 13:30～16:30

会場 江別市野幌公民館 研修室5号
(〒069-0813 江別市野幌町13-6)

講演 仮称)『石狩川ヤツメ漁業・文化の歴史』 関 秀志
仮称)『かわ本来のあるべき姿とは・・・』 妹尾 優二

関 秀志 石狩川やつめ文化研究会 副会長
(北海道史研究協議会 会長)

妹尾 優二 石狩川やつめ文化研究会 会長
(一般社団法人 流域生態研究所 所長)

主催 石狩川やつめ文化研究会
後援 江別市、江別市教育委員会
協力 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所
(一社) えべつ観光協会

開催にあたって

<開催趣旨>

石狩川流域に生息する「やつめうなぎ」は、古くから地域の自然環境と深く関わってきた生物です。しかし近年、海域や河川など自然環境の変化により、その生態や分布に影響が出ているといわれています。

また、石狩川を中心に発展してきた江別の歴史や、その恩恵、そして今なお残り引き継がれるべき自然環境の素晴らしさは、地域の未来を考えるうえで欠かせない視点です。

本勉強会では、専門家による解説を交えながら、やつめうなぎの生態や石狩川の河川環境の現状を学び、江別の歴史や自然環境の価値を再認識し、今後の保全や地域の取り組みのきっかけやヒントを見つけていただくことを目的としています。

こうした江別の歴史や自然環境の魅力は、案外知られていないことから、市民や自然再生に取り組む関係者を対象に勉強会を開催し、石狩川と江別の歴史や風土を知り、再発見し、地域の活力ある取り組みにつなげていただくため、平成27年から実施しており、今回で4回目の開催となります。



江別市のマンホールの蓋に「やつめ漁」様子が・・・

<石狩川のやつめうなぎ>

かわやつめは、川の砂利底で産卵し、幼生期には泥場で生活するなど、川の中の多様な環境を利用する生き物であり、河川環境の変化に非常に敏感です。

そのため、健全な河川環境を示す重要な指標種であると考えられています。

石狩川では、明治30年代から「やつめうなぎ漁」が行われ、健康食資源や食材として親しまれてきました。

その漁法は、明治中期に新潟県をモデルに始められたといわれ、釣り鐘状の「どう」と呼ばれる特殊な漁具を使う光景は、かつて江別の風物詩とされていました。

しかし、漁獲量は昭和63年をピークに急減し、近年は壊滅的な状態が続いています。

この影響で、江別市の恒例行事「八ツ目うなぎ祭り」は平成14年から休止しており、全国のファンから再開を望む声が今も寄せられています。やつめうなぎの資源は、江別市だけでなく、道内や全国的にも激減しており、その要因として、河川改修による生息環境の減少、海水温の上昇、寄生母体の減少、乱獲など、さまざまな環境変化が考えられています。



「どう」を使ったかわやつめ漁



幼生アンモシーテスの生息環境調査



かわやつめの蒲焼き

<石狩川やつめ文化研究会とは>

「石狩川のやつめうなぎ文化を守りたい」という思いを持つ江別市を中心とした市民が集まり、「やつめうなぎ資源の保護について理解を深め、やつめうなぎ文化の伝承・発展について研究する」ことを目的として、平成18年6月に『石狩川やつめ文化研究会』が設立されました。

令和8年には設立20周年を迎えることとなり、これまでで支えてくださった会員の皆様、関係者の方々、そして江別市内外の皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも引き続き、さらなるご支援とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

石狩川やつめ文化研究会
事務局長 角田 一

